



十六銀行



十六総合研究所

2023年6月30日

各位



平成工業株式会社とのポジティブインパクトファイナンス契約の締結について

株式会社十六銀行（頭取 石黒 明秀、以下「当行」といいます。）および株式会社十六総合研究所（社長 佐竹 達比古、以下「当社」といいます。）は、平成工業株式会社（代表取締役 長坂 充俊）とポジティブインパクトファイナンス（以下「PIF」といいます。）契約を締結いたしましたので、下記のとおりお知らせします。

PIFは、当行および当社にて、事業者さまの活動が外部（環境・社会・経済）に与えるインパクト（影響）を評価（特定・分析）し、ポジティブなインパクトの創出とネガティブなインパクトの低減に資するKPIを設定のうえ、定期的なモニタリングを通じてその達成に向けた取組みを支援していくことを目的とする資金調達手段です。

当行および当社は、PIFを通じて事業者さまと共通価値の創造をはかり、ともに持続的な成長を目指してまいります。

記





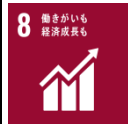
1. P I F 契約概要

コース	ローンコース
融資金額	100百万円
資金使途	運転資金
期間	5年

2. 企業概要

所在地	愛知県刈谷市小垣江町北諸峻26の4
事業内容	自動車部品製造
設立	1971年9月
資本金	10百万円

3. インパクト評価（要旨） ※ 詳細は後掲の「評価書」をご参照ください。

特定インパクト	KPI	関連SDGs
サプライチェーンを支えるものづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2028年度までに取引先数を50社まで増加させ、新たな分野のものづくりに挑戦する。（2022年度実績39社） ・ 2028年度までに製品不良率0.05%以下を達成し、自動車産業を支える高品質な製品の供給に努める。（2022年度実績0.10%） 	 
地球環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2030年度におけるScope 1, 2を2020年度比で42%削減する。 	 
働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2028年度までに特定保健指導の該当割合を5%以下にする。 	

以上

【本件ご照会先：経営企画部 広報・IR室 TEL 058-266-2511】

平成工業株式会社
ポジティブインパクトファイナンス評価書

2023年6月30日



十六総合研究所は、十六銀行が平成工業株式会社（以下、「平成工業」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクトおよびネガティブインパクト）を分析・評価した。この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、十六総合研究所が十六銀行と共同で開発した評価体系に基づいている。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

目次

1. 企業概要と理念、サステナビリティ	- 3 -
(1)平成工業の概要ならびに経営理念.....	- 3 -
(2)平成工業のサステナビリティ.....	- 5 -
2. インパクトの特定	- 6 -
(1)事業性評価	- 6 -
(2)バリューチェーン分析.....	- 9 -
(3)インパクトレーダーによるマッピング	- 10 -
(4)特定したインパクト	- 14 -
(5)インパクトニーズの確認	- 18 -
(6)ポジティブインパクトに対する追加性、十六銀行との方向性の確認.....	- 20 -
3. インパクトの評価	- 21 -
4. モニタリング	- 23 -
(1)平成工業におけるインパクトの管理体制	- 23 -
(2)当社によるモニタリング	- 23 -

1. 企業概要と理念、サステナビリティ

(1)平成工業の概要ならびに経営理念

【企業概要】

社名	平成工業株式会社
代表者	代表取締役 長坂 充俊
所在地	本社工場：愛知県刈谷市小垣江町北諸峻 26-4 岡崎工場：愛知県岡崎市大門 1 -5-17
事業内容	自動車部品製造
生產品目	自動車用パイプ部品 無酸化ロウ付け部品 機械用配管部品
資本金	1,000 万円
設立	1971 年 9 月
従業員数	84 人

【企業沿革】

1971 年	「長坂工業株式会社」として設立
1987 年	岡崎第一工場新設
1989 年	「長坂工業株式会社」から、「平成工業株式会社」へ社名変更
1990 年	岡崎第二工場新設
2005 年	ISO9001 認証取得
2014 年	岡崎工場として第一・第二工場を統合
2019 年	ISO14001 認証取得
2020 年	SDGs 宣言実施
2021 年	会社設立 50 周年（9 月）
2022 年	SBT 認定取得
2023 年	健康経営優良法人認定取得 ウェルビーイング事業部発足



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

平成工業は愛知県刈谷市と岡崎市の2か所に工場を構え、小径パイプ曲げ加工や無酸化ロウ付け加工による自動車用パイプ部品の製造を主業とする。同社が加工した製品は、主に自動車のパワーステアリング周りの冷却用配管などの「重要保安部品」として使用される。

企業理念として「①技術力、②合理化、③信頼性」を掲げ、取引先の様々な加工ニーズに対応するために、「研究開発力」と「生産技術力」の向上を日々追及している。

※取扱自動車部品の例（※以下、参考資料としての画像等はいずれも同社 HP より引用）



冷却パイプ

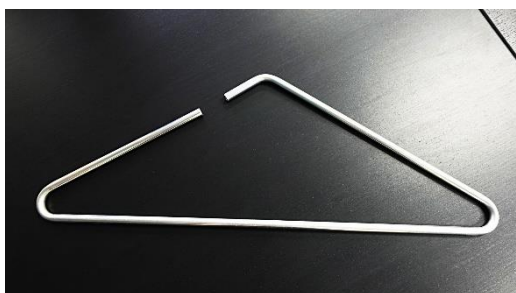


オイルジェット



フューエルパイプ

その他製品の例



三角ハンガー



建設用資材



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

(2)平成工業のサステナビリティ

同社では 2020 年 10 月に SDGs 宣言を実施し、「安全・品質」「環境への配慮」「働きやすい職場」「地域社会」の 4 つの観点から、持続可能な社会の実現に向けた取組みを開始している。

平成工業株式会社「SDGs 宣言」(2020 年 10 月)

「安全・品質を第一」に、世界中のお客様に品質満足度 100%を提供し続けることにより、持続可能な社会に貢献することを宣言します。

「安全・品質」

製品の安全性を高めるための技術向上を進め、お客様が納得し満足する 100%の良品を提供し続けるように活動して参ります。

具体的な取組み：

ISO9001 を基本とした品質マネジメントシステムの運用

「環境への配慮」

国際規格を基軸とした自動車製品における事業活動（生産・販売）を行い、環境配慮および改善を進めることにより継続的に環境負荷低減活動を行って実現して参ります。

具体的な取組み：

ISO14001 を基本とした CO2 削減、省エネ推進

「働きやすい職場」

労使間の風通しを良好にしすべての従業員がやりがいを持てる、働きやすい職場環境を提供することによりワーク・ライフバランスを実現して参ります。

具体的な取組み：

「AICHI WISH 企業」認定、ハラスメント・メンタルヘルスの対策

「地域社会」

地域社会の一員として、「地域社会とともに共存する」ことを念頭に入れ、社会貢献活動を実施し、地域とともに発展して参ります。

具体的な取組み：

寄贈型私募債「未来への絆」取組み、地域ボランティア活動への参加



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

また、2020年10月のSDGs宣言実施以降にも下記の取組みを実施し、持続可能な社会の構築に向けた取組みをより深化させている。

2022年	SBT 認定取得
2023年	健康経営優良法人認定取得 ウェルビーイング事業部発足

2. インパクトの特定

(1)事業性評価

同社事業の特徴として、自動車の重要保安部品に使用される強度が高く頑丈なパイプ加工部品を、「パイプ曲げ加工」「無酸化ロウ付け加工」「設備」「検査体制」によって、試作から量産まで対応可能な点が挙げられる。

「パイプ曲げ加工」

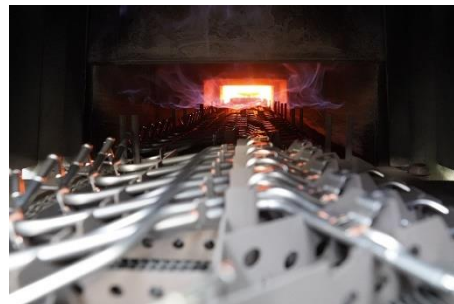
パイプを配管する場合には屈曲する部分が必要となり、その際には「曲げ」または「継ぎ手」にて対応する必要があるが、同社は長年「外観の美しさ」にこだわった小径パイプ曲げ加工を手掛けてきた。

パイプ曲げは継ぎ手と比較すると、気密性が高く中の空気や液体が漏れにくい、耐久性が高い、肉厚の薄いパイプの加工も可能である、配管の工数が少ない等の特徴を有する。また、パイプを曲げると曲げた部分の厚みの変形や、シワが入る場合があるところ、同社は独自で開発した専用の金型を使用することにより、複雑な形の加工にも対応することができる。



「無酸化ロウ付け加工」

ロウ付けとは金属の溶接方法の一種であり、接合する母材よりも融点の低い合金（ロウ材）を充填し接合する方法である。母材自体を溶融せずにロウ材を接着剤として用いるため、母材を傷めずに接合可能である点が特徴である。



同社はロウ付け加工の中でも、「無酸化ロウ付け」による加工を得意とする。一般的なロウ付け加工では、大気中の酸素によって母材をロウ付けの温度まで加熱する必要があるため、熟練の技術が必要となる。また、金属の酸化被膜を取り除き酸化を促進するためのフラックスを母材に塗布する必要がある。一方で、無酸化ロウ付けは、大気を遮断した炉の中の一酸化炭素、水素、窒素内で行われるため、熟練の技を必要とせず、炉の自動化により多量かつ安定的に高品質なロウ付けが可能となる。また、一般的にフラックスは強酸性のものがほとんどであるところ、無酸化ロウ付け加工は母材にフラックスを塗布する必要もないため、環境にやさしい手法としても知られている。

「設備」

多品種・小ロット～量産に適した最新鋭のロボットシステムを始め、多数の CNC パイプベンダー機や大型の無酸化ロウ付け加工炉等を常設しており、試作品から量産品までの幅広い対応を可能としている。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

「検査体制」

同社では工程毎に検査体制を構築し、高精度・高品質な製品の安定供給に努めている。

専用の治具や取引先メーカーの製品を実際の検査に使用する、特に重要な加工工程の検査には品質検査に関する筆記試験・実務試験に合格した社員のみが担当するなど、検査体制を充実させている。



以上の加工から検査までの充実した生産体制により、「試作品については一個単位から」、「製品のサイズについては板厚 0.5～3.2 mmまで」など、取引先メーカーの幅広いニーズに対応可能である。

さらに、近年では自動車部品製造で培った技術力を生かして、住宅建材等の「社会のインフラを支えるものづくり」にも新たにチャレンジしている。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

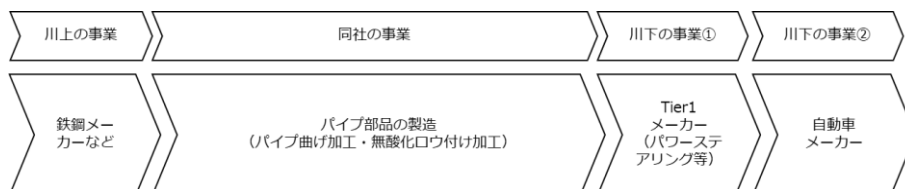
(2)バリューチェーン分析

同社は自動車産業のバリューチェーンの中で「Tier2 メーカー」に位置し、主に自動車の重要保安部品の「パイプ曲げ加工」「無酸化ロウ付け加工」などの工程を担う。同社が加工した部品は Tier1 メーカーにてパワーステアリング周りに組み込まれる。

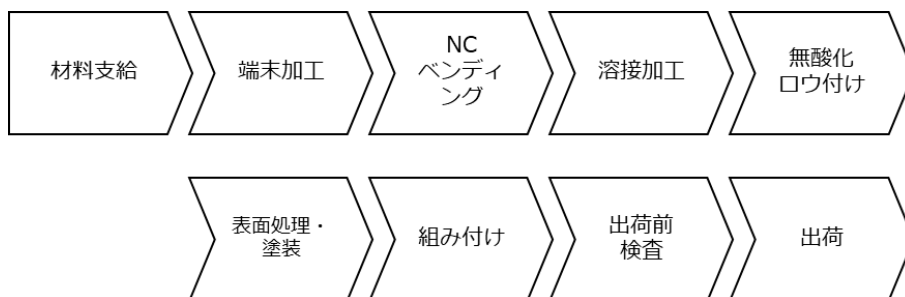
同社製品の原材料の大半は自社にて調達されたものであり、一部川下企業からの支給材が含まれている。同社は、カドミウム・水銀などの環境負荷物質¹が含まれていないこと、紛争鉱物²が使用されていないことを確認したうえで原材料を調達している。また、川下企業からの支給材についてもグリーン調達などのサプライチェーンマネジメント³が実施されている。

豊富な設備力と仕上がりの美しさ、品質の高さから、川下産業からの信頼も厚く、自動車産業のバリューチェーンを支えるうえで同社はなくてはならない存在となっている。

●バリューチェーン図



●製造工程



¹ 環境負荷物質：人の健康や生態系に有害な影響を与えるおそれのある物質（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、ポリ臭化ビフェニル、ポリ臭化ジフェニルエーテル、ヘキサブロモシクロデカン、フタル酸ジニエチルヘキシル、フタル酸ジブチル、フタル酸ブチルベンジルなど）の総称。

² 紛争鉱物：主にアフリカなどの紛争地域で採掘され、武装勢力の資金源となっている鉱物。

³ サプライチェーンマネジメント：原材料の仕入れから製造・販売までの一連の商流を管理する経営手法。

(3)インパクトレーダーによるマッピング

●インパクトマッピング（インパクトレーダー改訂版 2022 に基づき十六総研作成）

バリューチェーン			川上の事業 2410		同社の事業				川下の事業① 2930		川下の事業② 2910		
国際産業標準分類			第一次鉄鋼製造業		金属の処理・塗装・機械加工業		自動車部品及び付属品製造業		自動車部品及び付属品製造業		自動車製造業		
大分類	インパクトエリア	インパクトトピック	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	
社会	人格と人の 安全保障	紛争											
		現代奴隷											
		児童労働											
		データプライバシー											
		自然災害											
	健康および安全性	-			●		●		●		●		●●
		水											●●
	資源とサービスの 入手可能性、 アクセス可能性、 手ごろさ、 品質	食糧											
		エネルギー											
		住居	●										
		健康と衛生											
		教育											
		移動手段						●	●	●	●	●●	●
		情報											
		コネクティビティ											
		文化と伝統											
		ファイナンス											
	生計	雇用	●		●		●		●	●		●	
賃金		●	●●	●	●●	●	●●	●	●●	●	●●	●●	
社会的保護			●		●		●		●		●		
平等と 正義	ジェンダー平等												
	民族・人権平等												
	年齢差別												
	その他の社会的弱者												
社会 経済	強固な制度・ 平和・安定	市民的自由											
		法の支配											
	健全な経済	セクターの多様性											
		零細・中小企業の繁栄					●		●		●		
インフラ	-	●●		●●									
経済収束	-												
自然 環境	気候の安定性	-		●●		●		●●		●●		●●	
		水域		●		●		●		●		●	
	生物多様性と 生態系	大気		●		●		●		●		●	
		土壌											
		生物種											
		生息地											
	サーキュラリティ	資源強度		●●		●●		●●		●●		●●	
廃棄物			●		●		●		●		●		

マッピング中の「●●」は重要な影響があるトピック、「●」は影響があるトピックを示している。



人と、地域と、未来をむすぶ
十六総合研究所

先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施した。

同社並びに同社の川上・川下の事業を国際産業標準分類（ISIC）上の業種カテゴリに適用させた上、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト」（以下 PI）と「ネガティブインパクト」（以下 NI）を想定する。

同社の事業については「金属の処理・塗装・機械加工業（ISIC:2592）」「自動車部品及び付属品製造業（同 2930）」を、同社の川上・川下の事業については「第一次鉄鋼製造業（同 2410）」「自動車部品及び付属品製造業（同 2930）」「自動車製造業（同 2910）」をそれぞれ適用し、発生するインパクトの検証を行った。

【川上の事業】

川上の事業においては、特に重要な影響がある NI について検証する。

川上の事業においては、「生計（賃金）」「気候の安定性」「サーキュラリティ（資源強度）」のインパクトエリアにて重要な影響がある NI が発現すると考えられる。

「生計（賃金）」のエリアにおいては鉄鋼製造の現場における低賃金労働が、「気候の安定性」のエリアにおいては鉄鋼製造の現場における温室効果ガスの排出が、「サーキュラリティ」のエリアにおいては、鉄鋼製造の際の鉄・水・エネルギー等の資源の利用が、それぞれ NI として指摘される。

同社は ISO9001 認証に基づき製品不良率の低減、ひいては、原料や資源利用の削減に取り組むことで、これらの NI の緩和に努めている。

SDGs では以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」
- ・「12.2:天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する」
- ・「13.3:気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する」

【同社の事業】

同社の事業においてはインパクトマッピング上で発現が指摘されるインパクトエリアを網羅的に検証する。

「健康および安全性」のエリアにおいては、製造現場における労働環境が NI として指摘される。

同社では、最新鋭のロボットシステムによる製造ラインの自動化や「無酸化ロウ付け加工」技術により、本 NI の緩和に努めている。先述の通り、無酸化ロウ付けの場合、有害物質が含まれる可能性のあるフ



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

ラックスを使用しないため、安全衛生向上に寄与していると考えられる。

SDGs では以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

「資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質（移動手段）」のエリアにおいては、輸送システムへのアクセス可能性が PI として指摘される。

自動車の重要保安部品に使用される剛性が高く頑丈なパイプ加工部品を同社が供給することにより、本 PI の拡大に貢献していると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「11.2:交通の安全性改善により、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する」

「生計（雇用、賃金）」のエリアにおいては、従業員の雇用や生計の創出という PI が指摘される一方で、「生計（賃金、社会的保護）」のエリアにおいては、金属加工現場における低賃金労働や労働者の社会的な地位の不安定さなどの NI が指摘される。

同社は労使間の風通しを改善し、従業員のワークライフバランスの向上に努めることで、PI の拡大と NI の緩和に努めている。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「8.5:雇用と働きがいのある仕事、同一労働同一賃金を達成する」
- ・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

「インフラ」のエリアにおいては、サプライチェーンを支えることによる経済への貢献という PI が指摘される。

同社は自動車産業で培った複雑な形状の「曲げ加工」を高い精度で実現する技術を活かし建設資材（コンクリート内部の冷却用配管や駅の手すり）等の製造にも新たに取り組んでおり、本 PI の拡大に貢献していると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「9.1:経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する」

「気候の安定性」「サーキュラリティ（資源強度、廃棄物）」のエリアにおいては、温室効果ガスの排出や、エネルギー・水・鉄等の資源の利用、製造工程から生じる廃棄物や製造機械の老朽化に伴う廃棄物の発生などの NI が指摘される。

同社は ISO14001 を基本とした CO2 削減、省エネ推進や、ISO9001 を基本とした製品不良率の改善等に取り組むことで、これらの NI の緩和に努めている。



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「7.3:エネルギー効率の改善率を増やす」
- ・「12.2:天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する」
- ・「12.5:廃棄物の発生を減らす」
- ・「13.3:気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する」

なお、「資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質（移動手段）」「生物多様性と生態系（水域・大気）」のエリアにおける NI、及び、「健全な経済（零細・中小企業の繁栄）」のエリアにおける PI については、同社事業との関連性が希薄であると判断し、検証を省略した。

【川下の事業】

川下の事業においては、同社と関連性が高いインパクトについて検証する。

同社の川下産業で発生するインパクトについては、「資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質（移動手段）」のエリアで発生するPIが同社と関連性が高く、同社が自動車産業のバリューチェーンを支えることによって安全な移動手段提供に寄与しているものと考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「11.2:交通の安全性改善により、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する」

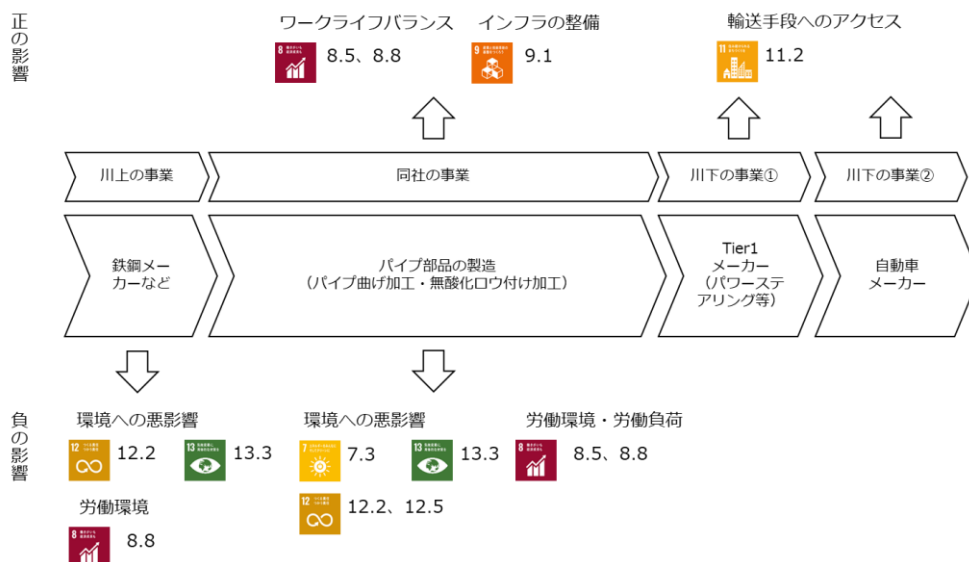


人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

(4)特定したインパクト

下図は「バリューチェーン分析」「インパクトマッピング」の結果を踏まえて、同社のバリューチェーンが与えるインパクトを可視化したものである。



以上を踏まえて同社のインパクトを下記のように特定した。

- サプライチェーンを支えるものづくり
- 地球環境への配慮
- 働きやすい職場環境づくり

- サプライチェーンを支えるものづくり

同社は「①新分野のものづくりへの挑戦」「②自動車産業のサプライチェーンを支える高品質な製品の供給」の2点を追求することで、自社事業を通じて社会インフラの構築に貢献していく方針としている。

「① 新分野のものづくりへの挑戦」

同社は、設立から50余年に亘って自動車の重要保安部品等の安定供給を通じて自動車産業の発展に尽力してきたのみならず、一般的に機能面だけに焦点があてられがちな産業用部品について、「美しく曲げる」ことを特別に追求してきた。独自で開発した専用金型は、同社の確かな実績とコンセプトを裏付けるように複雑な形状の「曲げ加工」を高い精度で実現しており、自動車部品メーカーが求める厳しい品質水準に応えるものである。

同社は、自動車部品一極集中体制からの脱却を課題として捉えており、本業において長らく培ってきた加工に関するノウハウや技術を活用して、建築分野で利用される金属配管等の製品開発・販売に取り組んでいる。さらに今後は、次世代型自動車をはじめ船舶・医療機器・半導体など新たな分野へ挑戦し、幅広い産業の発展に金属配管の曲げ加工を強みとするサプライヤーとして貢献する方針である。その第一歩として、他社の工場見学を定期的を実施し、その様子を同社の Twitter や Instagram、YouTube 等の各種 SNS 上で発信することによって、他社の魅力の訴求と自社の将来のパートナーとなる企業の発掘に向けた活動を展開している。

「②自動車産業のサプライチェーンを支える高品質な製品の供給」

同社は自社製品の品質保持と向上を図るため、これまで「リーク試験機」「三次元測定機」「形状測定機」等の充実した検査測定機器類の整備と併せて、これらを扱う従業員の技術向上に徹底的に取り組むことによって、高品質な製品づくりと安定供給を追求してきた。

今後も、社員全員の品質向上に向けた意識を醸成するため、5 S の徹底、改善活動および教育等を徹底し、不良の撲滅に向けて恒常的に取り組む方針である。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレダーでは「資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質（移動手段）」「インフラ」のエリアに該当し、社会的側面の PI を拡大すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「9.1:経済発展と福祉を支える持続可能で強靱なインフラを開発する」
- ・「11.2:交通の安全性改善により、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する」

■ 地球環境への配慮

同社は 2019 年に ISO14001（環境マネジメントシステム）認証を、2022 年に SBT 認証をそれぞれ取得しており、定期的な改善活動を通じて、自社事業から生じる環境負荷の低減に努めてきた実績がある。

同社は今後も上記認証の精神と目的に則り、とりわけ温室効果ガス排出量の削減に注力していく方針であり、具体的には、太陽光発電設備の設置、高効率設備の導入、電気自動車への切換え等を推進する計画である。

また、自動車業界では、鉄鋼製造から加工、最終製品の製造までにおいて多くの金属資源とエネルギーが利用されることが環境的側面でのネガティブインパクトとして指摘される中、同社は先述の通り製品不良率の改善活動を行い、本 NI 緩和にも寄与していく。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレダーでは「気候の安定性」「サーキュラリティ（資源強度）」

のエリアに該当し、環境的側面の NI を緩和すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

- ・「7.3:エネルギー効率の改善率を増やす」
- ・「12.2:天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する」
- ・「13.3:気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する」

■ 働きやすい職場環境づくり

同社はこれまで、従業員の働きやすい職場環境づくりのため、ハラスメント対策やストレスチェックによるメンタルヘルス対策等を行ってきた。近年では健康経営優良法人として認証取得のみならず、ウェルビーイング事業部を新たに発足するなど、従業員の健康づくりに向けた取組みを更に加速させている。

「ウェルビーイング事業部」

従業員の心身全般の健康増進を目的として、2023年2月に発足された。

同事業部の活動事例としては、2023年4月に本社1階にオープンしたテイクアウトカフェ「cafe Heisei」が挙げられる。テイクアウトコーヒーと米粉のシフォンケーキを同社従業員や地域の人々へ販売しており、今後も従業員の健康増進と地域に愛されるコミュニティスペースとなることを目指している。



cafe Heisei

今後については、会社として従業員の健康増進を図ることとし、「特定保健指導」に指定される従業員の低減に取り組む方針としている。同比率の低減に向けて、「健康だより」の定期的な発行や会社全体での毎日のラジオ体操の実施、社内食堂への血圧計の設置、食生活改善に向けたアプリの紹介等の取組みを既に開始している。併せて、管理栄養士や産業医との連携をはかることによって、従業員の健



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

康づくりにより一層注力し、ひいてはウェルビーイング経営⁴の浸透を図る方針である。

このインパクトは UNEP FI のインパクトリーダーでは「生計（雇用）」のエリアに該当し、社会的側面の PI を拡大すると考えられる。

SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

・「8.8:労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

⁴ ウェルビーイング経営：従業員が身体的、精神的、社会的に満たされるように組織の環境を整備していく経営手法のこと。

(5)インパクトニーズの確認

①日本におけるインパクトニーズ

同社の売上高の大半が日本国内におけるものである。国内における SDG インデックス& ダッシュボードを参照し、同社のインパクトとの関係性を確認した。

本 PIF において特定したインパクトに対応する SDGs のゴールは、以下の 6 点である。

- ・「7:すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
- ・「8:包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
- ・「9:強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
- ・「11:包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
- ・「12:持続可能な生産消費形態を確保する」
- ・「13:気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」

国内における SDG ダッシュボード上では、「13」については「大きな課題が残っている」、「7」については「重要な課題が残っている」、「8」「11」については「課題が残っている」とされており、同社が温室効果ガスの排出量の削減に取り組むことや様々な産業の発展に貢献するためにパートナーシップの構築に努めること等が、国内のインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。



(出所：SDSN)

②愛知県におけるインパクトニーズ

また、同社の事業活動が地元愛知県を中心として行われているため、「愛知県 SDGs 未来都市計画」を参照し、愛知県内における SDGs 達成に向けての課題を確認した。

下記のとおり、愛知県は「イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり」や「カーボンニュートラルの実現」を SDGs 達成に向けての課題とするなか、同社が様々な産業の発展に貢献するためにパートナーシップの拡大に努めることや、自動車産業のサプライチェーンを支える高品質な製品を追求すること、温室効果ガス排出量削減に取り組むことなどが、愛知県におけるインパクトニーズと一定の関係性があることを確認した。

「愛知県 SDGs 未来都市計画（第 2 期）」より今後取り組む課題を抜粋

（経済面）

○ デジタル化の急速な進展に伴って、産業構造の大きな変化が見込まれる中、自動車産業を始め、あらゆる産業において、イノベーションを巻き起こす力強い産業づくりの推進が必要。

（社会面）

○ 今後、人口減少局面に転じるとともに、急速に高齢者が増加。すべての人が参画し、生涯にわたって活躍できる社会を築いていくことが課題。

○ 若年女性の東京圏への流出超過が拡大する中で、持続的な発展のためには、若年女性の流入・定着が重要で、企業等で女性が活躍できる環境をつくっていくことが課題。

（環境面）

○ 都市化や産業活動により失われた各地域の生態系を再生・回復、維持していくためには、多様な主体が連携して生態系を守っていくことが課題。また、我が国随一の産業県として、企業等と連携しながらカーボンニュートラルの実現にも取り組んでいくことが重要。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所

(6)ポジティブインパクトに対する追加性、十六銀行との方向性の確認

ここでは特定した PI について追加性があること、十六銀行の SDGs の取組みと方向性が同じであることを確認する。本 PIF で特定した PI は「サプライチェーンを支えるものづくり」「働きやすい職場づくり」の 2 点である。

「サプライチェーンを支えるものづくり」では、様々な産業の発展に貢献するために、多様な企業とのパートナーシップの拡大に努めていく。

「働きやすい職場環境づくり」では、従業員の健康づくりを推進し、全ての従業員が健康で働きやすい職場環境の構築に努めていく。

上記については、SDGs を達成するために、効果が期待できる取組みであり、追加性があるものと評価できる。

十六フィナンシャルグループでは、「十六フィナンシャルグループ SDGs 宣言」の中で「地域社会の活性化」「地域社会の持続的発展」「多様な人材の活躍推進」「環境保全と気候変動対策」「ガバナンスの高度化」の 5 つを SDGs 達成に向けた重点課題（マテリアリティ）としている。

本 PIF で特定した PI は、「サプライチェーンを支えるものづくり」については「地域社会の持続的発展」と、「働きやすい職場環境づくり」については「多様な人材の活躍推進」とそれぞれ方向性が一致する。

以上から、本 PIF の取組みは追加性のある PI 創出支援を行うものであり、その本源的目的との合致を確認したうえで SDGs 達成に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることを目指すものである。



人と、地域と、未来をむすぶ



16FG

十六総合研究所

3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、先に特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する。

■ サプライチェーンを支えるものづくり

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトエリア	「資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質（移動手段）」「インフラ」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none">・自動車分野に留まらず広範な産業のサプライチェーンを支えるために新分野のものづくりに挑戦する・自動車産業のサプライチェーンを支える高品質な製品の供給を推進する
KPI	<ul style="list-style-type: none">・2028 年度までに取引先数を 50 社まで増加させ、新たな分野のものづくりに挑戦する (2022 年度実績 39 社)・2028 年度までに製品不良率 0.05%以下を達成し、自動車産業を支える高品質な製品の供給に努める (2022 年度実績 0.10%)



人と、地域と、未来をむすぶ

十六総合研究所

■ 地球環境への配慮

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面においてネガティブインパクトを緩和
インパクトエリア	「気候の安定性」「サーキュラリティ（資源強度）」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	・事業活動における温室効果ガス排出量を削減する
KPI	・2030 年度における Scope1,2 を 2020 年度比で 42%削減する

■ 働きやすい職場環境づくり

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを拡大
インパクトエリア	「生計（雇用）」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・健康経営を推進する。
KPI	・2028 年度までに特定保健指導の該当割合を 5%以下にする

4. モニタリング

(1)平成工業におけるインパクトの管理体制

同社は、社長の長坂氏と経理部部長である矢田氏、係長である宮野氏が中心となって自社業務や事業計画などの棚卸を行い、本 PIF におけるインパクトの特定並びに KPI の策定を行った。

今後についても、長坂社長を中心に SDGs の推進並びに本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

【モニタリング体制】

統括責任者	代表取締役 長坂 充俊 氏
プロジェクトリーダー	経理部 部長 矢田 洋一 氏
プロジェクトメンバー	経理部 係長 宮野 隼太郎 氏

(2)当社によるモニタリング

本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と十六銀行、十六総合研究所の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、十六総合研究所が現時点で入手可能な公開情報、平成工業から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況进行评估したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 十六総合研究所が本評価に際して用いた情報は、十六総合研究所がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。十六総合研究所は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は十六総合研究所に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。



人と、地域と、未来をむすぶ

16FG 十六総合研究所